



自己紹介文

コンサルタントの梶木繁之（かじきしげゆき）です。私はこれまで、大手鉄鋼メーカー、外資系石油会社の専属産業医をはじめ、国立・私立大学の総括産業医、大学病院、コールセンターの嘱託産業医、建設鉱山機械製造、半導体製造、中小規模企業の保険者、精密機械製造、シンクタンク、電機、自動車などの本社コンサルタントとして活動してきました。また最も長いキャリアは医科大学の教員で、専門は労働安全衛生マネジメントシステムと産業保健マーケティングの理論を活用した企業内での実践的健康管理施策の立案、実施、評価です。これまでに、のべ 5000 人以上の医師に対し、産業医学に関する法制度や実務上必要となる基礎知識、応用手法などの具体的な教育を行ってきました。また、産業看護職のスキルアップや生涯教育にも加わり、産業看護職セミナー（産業医科大学主催）の企画運営委員として約 11 年におよぶ実績があります。大学内では医学部、看護学部等の学部講義に加え、産業衛生学専攻の大学院生に対する指導も行っていました。

その他、2008 年から労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格である OHSAS 18001（現在は ISO45001）の監査員（TUV Rheinland Japan）として数々の企業に赴き、安全衛生体制（システム）の有効性や妥当性に関する評価や提言を行っています。

企業（組織）内で事業者の意向に基づき健康管理施策を推進するには、**活動方針の明確化**（方針作成）や医療の専門職を含む関係者間での**組織づくり**（**チームビルディング**）、**活動の見える化・標準化**（マニュアル作成）、**運営ルール・評価制度の導入**（**評価・監査**）、**継続的な改善の仕組み**（**マネジメントシステムの運用**）等が必要になります。

さらに、個々の具体的な活動を進める上での**理論的背景**や**法的根拠**を知っておくことも重要です。これまで、非正規労働者の健康問題、リスクアセスメント手法の開発（化学物質、メンタルヘルス、人間工学等）、産業保健サービスの質の評価システムの開発、海外事業場の安全衛生体制の確立、コラボヘルス・健康経営の推進、就業と治療の両立支援など様々な研究にも関与し、現在も大学の非常勤講師を務めています。

それぞれの企業で、社員の健康管理や労働安全衛生活動に対する思いは異なりますが、これまでの知識や経験を基に、**オーダーメイド**でその**組織に最も適した活動や体制の在り方を皆さんとともに考え、提案し、実施から定着までをトータルで支援**いたします。

ここからは、出で立ちをご紹介します。

興味のある方はご覧ください。

Advanced Occupational health Research and Consulting
株式会社 産業保健コンサルティングアルク (AORC)

私は鹿児島県の県北の町、大口市（現在の伊佐市）で育ちました。夏は暑く冬は寒い、のどかな盆地の田舎で家業は製造業（煉瓦製造・軽石加工）や旅館業、養殖業、園芸業、飲食業（岩穴ソーメン流し、ラーメン店、うどん店）等を営んでおりました。

13歳の時、社長であった父の死去に伴い母が経営する旅館業と飲食業で生計を立てることになり、その後高校卒業までの18年間を鹿児島で過ごしました。小学校1年生から始めた剣道は大学まで続け、現在もときおり稽古に励んでおります。中学・高校では生徒会の役員を務め、剣道と勉学の両立に励みました。高校3年の大学進学時には、亡き父がB型肝炎による肝硬変と肝ガンで亡くなっていたこともあり医学の道を目指し、産業医科大学に入学しました。

大学時代は、4つの部活動（剣道部、トライアスロン部、ワンダーフォーゲル部、軽音楽部）と週3日のアルバイト（結婚式場のウェイター、塾講師、家庭教師）をこなしながら、なんとか卒業し、晴れて医師としての道を歩み始めました。大学時代の思いでは、西日本医科学学生体育大会（剣道部門）で優勝できたことと、ネパールやタイ、お遍路へのバックパック旅行で多くの知人、友人を得られ、見聞を広められたことです。

初期臨床研修は、福岡県飯塚市にある麻生飯塚病院で総合診療と救急を中心とするスーパーローテート方式で研鑽を積み、研修医2年目には約1.5か月のアメリカ短期留学（ジョージタウン大学医学部附属病院）も経験しました。その時出会った先輩、同期、後輩は今でもよい仲間です。

医師となって3年目、初めての産業医を新日本製鐵君津製鐵所（現在の日本製鐵株君津製鐵所）で経験しました。日本における労働衛生の歴史は、鉄鋼の歴史といっても過言ではなく、様々な有害作業の中で働く労働者の方々との対話や現場の巡視を通じて、現場第一主義の大切さを学びました。

その後、産業医科大学産業生態科学研究所 産業保健経済学研究室で、企業ニーズに基づく産業保健活動の展開手法（後の産業保健マーケティング）等を学び、2001年1月から、国際石油資本 エクソンモービルグループの西日本エリアの事業場（名古屋以西の製油所2か所と6つの営業所）を担当する産業医として赴任しました。エクソンモービルグループは労働安全衛生活動を統一した基準でグローバルに展開しており、活動の原理をリスク管理としてと捉えていました。ここで初めて、マネジメントシステムによる産業保健活動の理論（基礎）と応用（実務）を学びました。

約5年におよぶ専属産業医経験ののち、2005年5月からは母校産業医科大学の産業医実務研修センターに教員として戻り、学内の産業医（病院）や若手医師（産業医学専門修練医：卒後3-6年目）の指導、産業現場での課題に対する研究（非正規労働者対策、マネジメントシステム、リスクアセスメント等など）に取り組みました。

2012年には産業生態科学研究所 産業保健経営学の講師となり、産業保健活動やサービスの質の評価、日系企業の海外事業場における産業保健体制の構築と支援、産業医の育成の在り方、労働生産性、コラボヘルス・健康経営などに関する研究に従事してきました。

また2005年以降、九州工業大学 安全衛生推進室 衛生部門主幹(総括産業医)、西南学院グループ(総括産業医)、富士通コミュニケーションズ(株)産業医、JSR マイクロ九州(株)産業医、小松製作所(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) 本社などの産業医や労働安全衛生コンサルタントとして活動し、一部は現在も継続しています。

専門職としての資格は、医学博士、日本産業衛生学会専門医・指導医、社会医学系専門医・指導医、労働衛生コンサルタント(保健衛生)、ISO45001:労働安全衛生マネジメントシステム監査員(TUV Rheinland Japan)などを保有しています。

著書もこれまでにいくつか執筆しており、以下にその一部をご紹介します。

- ① 産業保健スタッフのための ISO45001 -マネジメントシステムで進める産業保健活動-
- ② 産業医ストラテジー: バイオコミュニケーションズ(編)
- ③ 産業保健担当者のための経営学入門: 労働調査会(共著)
- ④ 看護職のための産業保健入門: 保健文化社(共著) 他
- ⑤ 企業活動としての産業保健「第5章 マーケティング」: 法研(共著)
- ⑥ 保健指導サービスの評価と改善: 医学書院(共著)
- ⑦ 高齢者雇用に役立つエイジマネジメント: 労働調査会(共著)
- ⑧ 嘱託産業医のための Q&A ②: 労働調査会(共著)
- ⑨ 写真でみる職場巡視のポイント ③: 労働調査会(共著)
- ⑩ 自主的産業保健活動の標準プロセス ④: 労働調査会(共著)
- ⑪ 産業保健担当者のための経営学入門 ⑤: 労働調査会(共著) 他
- ⑫ 働く人の健康状態の評価と就業措置・支援 ⑥: 労働調査会(共著)
- ⑬ 使える! 健康教育・労働衛生教育 55 選: 日本労務研究会(共著)
- ⑭ 雇用形態多様化と労働者の健康: 労働科学研究所(共著) など

産業医実務の全般を対応できますが、その他にも「産業保健体制の構築」、「産業保健専門職の活用・育成」、「結果に繋がる目標・計画の立案」、「産業保健活動(パフォーマンス)の評価」、「成功事例に基づく改善活動の助言」、「マーケティング理論を用いたニーズに基づく戦略的活動の企画」、「社内向け教育・研修の企画・実施と評価」、「健康経営を目指す企業への包括的な支援」などを得意としております。ご要望があれば、いつでもお声掛けください。